

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">日本文学講読Ⅲ</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">文学部日文1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">横田 隆志</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">『今昔物語集』を読む</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>『今昔物語集』は千話以上の説話を集成した説話集であり、内容も実に多岐にわたります。芥川龍之介のいくつかの小説が『今昔物語集』を参照して書かれたこともよく知られています。この授業では、芋粥の話をはじめとするいくつかの説話を紹介しながら『今昔物語集』と説話文学の魅力を紹介していきます。</p>		
<p>評価方法</p> <p style="text-align: center;">出席状況（40%）・試験（60%）</p>		
<p>テキスト</p> <p>プリントを配布します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>授業のなかで適宜紹介します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>(1) ガイダンスとして『今昔物語集』の成立や内容について学びます。『今昔物語集』は中学・高校の古典教材としてすでに取り上げられていると思いますが、本書は千話以上の説話で構成されており、具体的にどういった説話が収録されているかを広く知る機会は少なかつたのではないかと考えられます。授業でははじめに『今昔物語集』をめぐる基礎的かつ重要な事項について解説します。</p> <p>(2) 基礎的な知識をつけた上で、いくつかの説話を取り上げ、具体的かつ丁寧に解説していきます。予定としては、芥川龍之介の小説でも取り上げられた芋粥の説話や、謡曲で知られる道成寺の説話など、有名な説話を中心に選定します。それとともに、『今昔物語集』は仏教説話集でもありますので、当時の仏教のありかたや、仏教と文学との関わり方についても解説します。以上の内容を通じて、『今昔物語集』や説話文学の魅力について紹介していきます。</p> <p>(3) 最後に授業で紹介した『今昔物語集』の内容について理解度をはかる試験を実施します。</p> <p>※具体的には授業は次のスケジュールで行います。</p> <p>第1回 『今昔物語集』イントロダクション1……説話とは何か</p> <p>第2回 『今昔物語集』イントロダクション2……『今昔物語集』の構成</p> <p>第3回 『今昔物語集』の芋粥1……利仁將軍・狐・芋粥</p> <p>第4回 『今昔物語集』の芋粥2……芥川龍之介の「誤読」</p> <p>第5回 蛇になった女の話……道成寺説話の世界</p> <p>第6回 地獄と極楽1……往生伝の世界</p> <p>第7回 地獄と極楽2……救済に訪れる仏たち</p> <p>第8回 天竺の兎と釈尊……ジャータカ説話の世界</p> <p>第9回 中国の孝子伝……『今昔物語集』巻九を中心に</p> <p>第10回 動物説話の世界……「野猪」はイノシシか？</p> <p>第11回 「霊鬼」の世界……『今昔物語集』巻二十七を中心に</p> <p>第12回 躍動する武士の群像……『今昔物語集』巻二十三・二十五を中心に</p> <p>第13回 人に知られざる女盗人……『今昔物語集』巻二十九を中心に</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 試験</p>		